



撮影：佐藤雄治

春まだ浅い晴れた日、大谷石研究会のバスツアーに参加した。

今回の参加は、大谷石研究会の塩田会員に誘われてのツアー初参加ではあるが、生業であるタクシーによる観光の、言わば観光スポット探してある。旧篠原家住宅に始まり、松が峰教会、聖ヨハネ教会、屏風岩石蔵、また西根地区での石蔵の街並み景観等々大谷石に関する各所を見学し、最後に渡辺家での総括討論タイムな一日であったが参加した人達は県内外から多彩で、至って感激の様子であった。

もう10年以上前の話で恐縮だが、業界の全国大会後にタクシーで巡る九州・関東半島の観光をしたときである。国東半島は、京都や奈良のように名所や歴史遺産が都市に集中して所在しているのではなく、各地に点在しているのが特徴的である。古刹が3キロ先であったり、5キロ先であったり、そのためタクシーやバスの利用が欠かせない。

その日は多分休日であったと思うが、巡る先々で子供たちが大人と一緒に、お堂や仏像を丁寧に清掃している姿に接し、残された歴史遺産を地元の人達が大切に守っているのが強い印象として残った。この清掃作業は、残されたわが町の歴史遺産を子供たちと共に大切に継承していく精神的側面もあると大人は言う。

宇都宮市長へ要望書を提出 回答が来る

NPO法人 大谷石研究会
理事長 小野口順久

宇都宮市は既に餃子、ジャズ、カクテル等で知名度はあるものの、その他の観光資源が乏しく、観光都市にはとてもなれないと一般的には言われている。果たしてそうだろうか？

平成25年2月1日、旧大谷公会堂に関する要望書「その四」を、城山地区内の関係7団体連署の上、市長と面談し手交しました。

ここで、「旧大谷公会堂の移築・活用を推進する運動」の経緯を総括しますと、平成14年8月から開始し、平成17年9月に市の最終回答が寄せられ、即ち「県道70号線の拡幅工事が決定し、公会堂の移築が余儀なくされた場合は、検討せざるを得ない」とのことでした。

そのために、要望書を栃木県知事に變更し、学童の交通安全と観光のための大谷橋架け替えの要望書」を提出してました。

ところが「昨年の台風15号の集中豪雨により、釜川が増水し、旧大谷公会堂までも浸水してしまい、県側は急遽、河川や道路の実態調査に乗り出し、

地元説明会等を実施、今年9月を目途に、県と市の協議をする運びになりました。

そこで、このような実情を踏まえて、市より下記の通り回答がありました。

「…平成25年度中には県道拡幅に係る詳細設計が行われる見通しであり、そのことから、栃木県より、これらの情報を収集した上で、旧大谷公会堂を現地で保存するか、または移築が必要になるのかを検討してまいります。」とのことでした。

これに対する当研究会の対応は専門部会を中心として、現在の建築基準法に基いた構造上の問題、移築の場所、費用や活用方法など具体的提言をする方向で目下検討中です。

何れにせよ、長年に亘り要望してきた本件が、愈々最終段階にきていることは確かです。

大谷を巡るバスツアーに参加して 3月9日開催

当日の詳しい内容は「大谷石研究会ホームページ」で報告してあります。参加者の感想も

アサヒタクシー株式会社
代表取締役 笠原正人

もう10年以上前の話で恐縮だが、業界の全国大会後にタクシーで巡る九州・関東半島の観光をしたときである。国東半島は、京都や奈良のように名所や歴史遺産が都市に集中して所在しているのではなく、各地に点在しているのが特徴的である。古刹が3キロ先であったり、5キロ先であったり、そのためタクシーやバスの利用が欠かせない。

その日は多分休日であったと思うが、巡る先々で子供たちが大人と一緒に、お堂や仏像を丁寧に清掃している姿に接し、残された歴史遺産を地元の人達が大切に守っているのが強い印象として残った。この清掃作業は、残されたわが町の歴史遺産を子供たちと共に大切に継承していく精神的側面もあると大人は言う。

翻つて考えると、この地宇都宮に残された古い大谷石建造物や景観を宇都宮市民がどれほど知っているか、これらの文化的遺産を後世に伝える気持、意識がどれほど醸成されているか、且つ子供たちに歴史的価値をどれだけ教えているか大変疑問に思う。特に感じるのは行政側の取り組みの希薄さだ。



聖ヨハネ協会



松が峰教会

先人が残したこの大谷石文化財を、5年先、10年先を見据え、ハード面ばかりでなく啓蒙と保存運動などのソフト面にもリーディングを発揮し取り組んでいきたいと思います。

勿論、研究会だけでは取り組む課題は大きいと思うが、行政の積極的な支援を望むものである。

一度参加しただけの理解不足の私が大それた事を書いてしまったが、大谷石文化を愛する一市民としての切望と願っていただけなら幸甚である。軽い気持ちの参加であったがこのバスツアーで改めて感じたことは、大谷という独自の文化的建造物が有りながら落盤事故により、市民の悪いイメージ定着と記憶が薄れていく中、大谷の価値を甦らせようと研究会の人



屏風岩石蔵

達が懸命に努力していることに感動させられた穏やかな小さな旅の一日となった。

大谷観音や平和観音再開した大谷資料館等を含めた大谷地区は、宇都宮が誇る独自で立派な観光資源であることが改めて判り新鮮であり高揚した気分にはさせられた。

宇都宮市の立派な観光スポットとして、エリエンツや市内のホテル、当社ホームページでアピールし、タクシーによる

- これらの論点から大谷石研究会に望むのは
- 1 これからもバスツアー等による市民のための見学会の開催
 - 2 親子を対象とした見学会の開催
 - 3 大谷石マップ、観光案内パンフレットの作成
 - 4 自治体と一体となったPR活動と保存活動
 - 5 観光スポットとして、自治体による景観整備に対する要請
 - 6 地域の人達による保存会等の結成に向けた支援活動



渡辺家住宅

最後に塩田会員をはじめ、大谷石研究会の皆さんの温かく献身的な接遇に感謝申し上げ、会の発展と会員の活躍をご祈念するとともに大いに期待いたします。



大谷石露天掘り

大谷石 東西南北

大阪の喧噪でも引き立つ大谷石

(NPO法人 大谷石研究会広報担当 平沼 隆志)

百貨店の増床や再開発ビルの誕生に湧く大阪・梅田地区。その喧噪の中でも、懐かしい大谷石に出会うことができた。JRグループの駅ナカ商店街「エキマルシェ」だ。出入り口の店名表示に大谷石を活用。サイズの違う石を巧みに組み合わせて独特な雰囲気を出している。

ビルラッシュで登場する新しい施設の装飾はきらびやかで自己主張の強い傾向にある。そんななかで、大谷石の包容力ある穏やかさは逆に引き立つ。人の心を落ち着かせる役割を果たしている気がする。派手な再開発ビルの谷間に大谷石はよく似合う。そんな気がする。



NPO法人大谷石研究会のホームページ
<http://www.ooyaishi.org/>

コンテンツ盛りだくさん
大谷石研究会とは・大谷石の歴史と魅力・全国の大谷石の建造物・最近の使用例・石蔵や大谷石の活用例・大谷石の工法と保存・活動報告ブログ・会報誌(バックナンバーがダウンロードできます)

宇都宮商工会議所中心商業地新規出店促進事業補助金 宇都宮市の中心で「空き店舗出店補助金」受けられます。

- 内外装改造費
 - 大谷石蔵活用店舗
 - 対象/天井・壁・床・塗装・サイン・電気・給排水工事が対象
 - 補助率/30%
 - 限度額/200万円
 - 特例加算
 - 大谷石活用事業
 - 対象/大谷石を活用した内外装工事をした場合
 - 補助率/30%
 - 限度額/50万円を限度に内外装改造費補助額に加算
 - ※ただし、おもてなし事業が適用される場合には、その限度額を適用する。
 - おもてなし事業及び大谷石活用事業における対象費用
 - 大谷石活用事業
 - ・内装、外装のいずれの使用においても対象とする。
 - 大谷石活用にかかる費用及び同関連費用
 - ・上記に掲げるものほか、委員会が特に必要と認める費用
 - ※宇都宮市大谷石利用促進事業補助金との併用はできません
 - その他必要費用
 - ※大谷石活用事業を実施した場合には、50万円を限度として要綱に規定する各対象事業にかかる内装改造費補助額に加算する。ただし、おもてなし事業と大谷石活用事業の双方を実施した場合には、要綱に規定する各対象事業にかかる内装改造費補助額を50万円加算する。
- 対象区域は・・・「中心商業地出店等促進事業補助金対象区域」。詳細はお問い合わせください。
●宇都宮商工会議所 地域振興部 TEL 028-637-3131
●宇都宮市経済部商工振興課商工振興グループ TEL 028-632-2433

販売・商品開発
有限会社 KANEHON

〒321-0345 宇都宮市大谷町 350 番地
TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192

大切にしますパートナーシップ

印刷技術がいかに進歩しようとも
技術表現の根幹は「心」であると考えます

印刷のご用命は
株式会社 新光社印刷

〒321-0811 宇都宮市大通り2-4-1番地
TEL 028-633-4718(代) FAX 028-637-3981

とびきりの時間ここにあります。

おりおりの風情を楽しみ、
趣と感性を大切に、
いつも驚きと楽しみがあふれる、
斬新な空間と時間を提供します。

空間の匠
器と心をつらぎを結ぶ

〒320-0812 宇都宮市一番町2-17 TEL 028-633-3574
■営業時間 AM10:00~PM8:30 ■日曜定休

大谷石と共に170年

探掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部
設計・施工

有限会社 高橋佑知商店

本社 宇都宮市大谷町 3 5 0 番地
TEL 028 (652) 0005 (代表)
FAX 028 (652) 0192